

山梨県立大学地域研究交流センター 2018 年度研究報告書

年 報

山梨県立大学地域研究交流センター

目 次

地域研究交流センター長挨拶 「2018 巻頭言」	1
I. 交流・発信部門	2
1. 交流・発信部門事業の概要	2
2. 部門事業の実績と課題について	3
【交流・発信部門の個別事業】	4
1. 講師・委員等の応嘱	4
2. 学外からの相談等への対応	5
3. 高校大学連携講座の実施	6
4. 教員の地域貢献活動への支援	7
5. 学生による地域貢献活動への支援	8
6. 大学周辺自治会との連携	9
7. 池田地区総合防災訓練への参加・協力	11
8. 池田地区健康まつりへの参加・協力	13
9. 穴切地区総合防災訓練への参加・協力	15
10. 第 21 回山梨チャリティーラン 2018」へのボランティア参加	16
11. 年報の発行	16
12. ニュースレター「tobira」の発行	16
13. ウェブサイトでの情報発信	17
II. 生涯学習部門	18
1. 部門事業の概要	18
2. 部門事業の実績と課題について	18
【生涯学習部門の個別事業】	19
1. 地域研究交流センター主催事業	19
(1) 観光講座	19
(2) 秋季総合講座	22
2. 地域連携講座事業	23
(1) 「やまなしの創生」講座	23
(2) 日本語・日本文化講座	25
(3) 子育て支援員認定研修会	25
(4) 平成 30 年度やまなし市民後見人養成基礎講座 (第 5 期)	27

3. 学部共催事業	28
(1) 看護学部健康講座「3世代交流あなたも私もいきいき健康づくり」	28
(2) 人間福祉学部人間形成学科「2018第8回保育リカレント講座」保育者のメンタルヘルスケアーストレスコーピングを中心に	29
(3) 国際政策学部「山梨政策フォーラムー甲府市の空き家対策の現況と課題」	31
(4) 国際政策学部「戦後文学への招待」	32
III. 地域研究部門	33
1. 部門事業の概要	33
2. 部門事業の実績と課題について	33
(1) 個別の研究事業	33
(2) 研究報告会	34
(3) 実績と課題	34
VI. 事務局	36
1. 運営委員会記録	36
2. 組織図・委員名簿	39
3. 年間の時系列記録	40
資料	
フライヤー等	43

2018 巻頭言

公立大学としての役割を担うため、本学では地域研究交流センターを中心に、さまざまな地域貢献事業を行ってまいりました。その中でも「秋季総合講座」（平日午後）「観光講座」（土曜日午後）「山梨学講座」（平日夜間）などは、地域の方々の興味や要望を聞きながら実施しております。どの講座も多数の受講生があり、好評を得ていることに感謝申し上げます。受講後のアンケートを拝見すると、最近目立つ記述があります。それは、有料でも良いから体系的な学習の機会を作って欲しいという声です。より高度で専門的、あるいは実用的な内容を希求しています。これに応えるべく、実施の具体的な方策を検討することになりました。現時点では、多文化共生を視野に入れて、韓国語・スペイン語・フランス語など、多様な外国語学習の場を提供する案などが出ております。上記の講座を含めて、有料化にともなう問題点を整理し、社会人の学び直しの制度化を視野に入れながら、堅実に実現できるよう、これからも力を尽くしたいと思います。

地域研究交流センター長
二戸 麻砂彦

交流・発信部門

1. 部門事業の概要

1. 交流・発信部門事業の概要

(1) 講師・委員等の応嘱

学外の団体等からの依頼により、本学教員が講演、研修等の講師を務めるほか委員等へ委嘱された。

(2) 学外からの相談等への対応

学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応した。

(3) 高校大学連携講座の実施

城西高校、身延高校との高大連携講座を継続実施した。

(4) 教員の地域貢献活動への支援

教員の地域貢献活動への支援依頼に対応した。

(5) 学生による地域貢献活動への支援

「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援の制度に基づき、3件のプロジェクトに係る認定・支援を行った。

(6) 大学周辺自治会との連携

平成28年から大学周辺自治会との懇談会を設けており、今年度も飯田キャンパス周辺の穴切地区、池田キャンパス周辺の池田地区の各自治会長と懇談会を行った。

(7) 池田地区総合防災訓練への参加・協力

本学は協力・指導団体として、池田地区連合自治会主催の総合防災訓練の企画会議から参加し、救護訓練を担当した。

(8) 池田地区健康まつりへの参加・協力

池田地区連合会からの依頼を受け、看護学部の教員と学生が「池田地区健康まつり」に参加・協力した。

(9) 穴切地区総合防災訓練への参加・協力

平成28年から穴切地区連合会からの依頼を受け、人間福祉学部の教員と学生が穴切地区総合防災訓練での救護訓練を担当した。

(10) 「第21回山梨チャリティーラン2018」へのボランティア参加

(11) 年報の発行

『2017年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を2018年5月31日付けで発行した。

(12) 地域研究交流センターニューズレター「tobira」の発行

地域研究交流センターニューズレター「tobira」を、本学と地域を結ぶ機関紙として発行し、県内外の関係機関・団体等に配布した。2018年度は下記の通り発行した。

No. 32 2018年6月29日

No. 33 2018年11月6日

(13) ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイトにおいて、地域研究交流センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物、活動記録等について情報発信した。

2. 部門事業の実績と課題について

ウェブサイト、ニューズレター、年報の媒体を用いて、地域研究交流センターの事業活動について学内外に情報発信を行った。こうした情報発信は、事業記録としても有効であり、大学の説明や自己点検評価等にも活用されている。

2018年度も、前年度と同様の体制のもとで、継続的に情報発信活動を行った。ニューズレターと年報については、おおむね予定通りのスケジュールで発行され、安定的に情報発信されている。ニューズレターは、2016年度から年2回の発行となったが、紙媒体での情報発信には独自の意義があり、今後とも内容の充実を図っていく必要がある。ウェブサイトについては、さらに的確で効果的な情報発信のために、センター全体のビジョンに基づきつつ、大学全体の広報活動との関係もふまえて、戦略的な情報発信を進めていく必要がある。

(文責 青柳暁子)

【交流・支援部門の個別事業】

1. 講師・委員等の応嘱

本学教員は学外の団体・自治体・学校等から依頼を受け、各種講師・委員等に応嘱している。平成30年度の応嘱状況を下の表に示す。

これによれば、全学でのべ件447の応嘱があり、内訳は、講義・講演が185件、委員等が111件、その他が44件であった。学部別には、国際政策学部が76件、人間福祉学部が255件、看護学部が107件、職員等が9件であった。

なお、本報告における数値は平成31年3月7日までに地域研究交流センターが把握した情報に基づくものである。ここに示した数値は、大学に対し文書による派遣依頼がなされた案件、もしくは大学が人員選定等に関与した案件に限定されており、これ以外にも把握されていない案件が存在すると考えられる。

表1 平成30年度の講師・委員等応嘱状況

学部名	依頼内容名			総計
	講義・講演	委員等	その他	
国際政策	22	48	6	76
人間福祉	163	61	31	255
看護	106	1	0	107
職員等	1	1	7	9
総計	185	111	44	447

表2 平成30年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：講義・講演

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
幼稚園・保育園	0	0	0	0	0
小中学校	0	3	4	0	3
高等学校	3	1	2	0	4
専門学校	0	4	4	0	4
大学・短期大学	18	14	7	0	32
県関係機関	0	22	21	0	22
市区町村	0	52	8	0	52
各種団体	0	42	38	1	43
医療機関・福祉機関等	0	11	14	0	11
省庁等	0	0	1	0	0
その他	1	14	7	0	15
総計	22	163	106	1	291

表3 平成30年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：委員等

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
高等学校	4	0	0	0	4
大学・短期大学	3	0	0	0	3
県関係機関	24	31	0	1	56
市区町村	12	13	1	0	26
各種団体	3	16	0	0	19
医療機関・福祉機関等	0	0	0	0	0
省庁等	1	0	0	0	1
その他	1	1	0	0	2
総計	48	61	1	1	111

表4 平成30年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：その他

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
小中学校	0	0	0	0	0
高等学校	1	0	0	0	1
県関係機関	5	15	0	5	25
市区町村	0	6	0	1	7
各種団体	0	8	0	1	9
医療機関・福祉機関等	0	0	0	0	0
その他	0	2	0	0	2
総計	6	31	0	7	44

2. 学外からの相談などへの対応

地域研究交流センターは、学外と大学をむすぶ窓口として活動しており、さまざまな依頼・相談・照会等に対応するほか、学外団体主催行事への協力、協力名義提供施設提供などに対応している。本年度も各種活動への協力名義提供、施設提供を行った。

(文責：青柳暁子)

3. 高校大学連携講座の実施

(1) 城西高校高大連携授業（看護・福祉）

「山梨県特色ある高校づくり支援事業」として城西高校からの依頼を受け平成 18 年度より実施している看護・福祉系進路希望者を対象とした「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を、本年度も継続して実施した。看護学部 8 名、人間福祉学部 7 名、計 15 名の教員の協力があつた。教員名とテーマは以下の通りである。

表 5 30 年度 城西高校高大連携授業

月日	担当先生	講義テーマ
5月29日	川池智子	障害をもつことは、特別なことだろうか？
6月19日	大津雅之	数ある人を支援するための専門職の中におけるソーシャルワーカーの役割
7月17日	山本奈央	手術を受ける患者の看護
8月28日	茅野久美	高齢者の言語を科学的に理解しよう
9月4日	大久保ひろ美	看護の基本となる「技」
9月25日	清水智嘉	ストレスについて
10月2日	横内理乃	訪問看護師の仕事
10月9日	田中謙	子どもの発達と支援
10月23日	横森愛子	子どもの看護を考える
10月30日	青柳暁子	介護予防を考える
11月6日	山田光子	リーダーシップとコンセンサス
11月13日	柳田正明	障がい福祉への誘い
12月4日	山中達也	「私」を大切にすることって何だろうか？
1月8日	渡邊由香	妊娠期の看護～妊婦体験をしてみよう～
1月15日	前川有希子	高齢者の動き一座る・立つ・歩くー

(2) 甲府城西高等学校との高大連携授業

2018 年度は、山梨県庁防災新館 1 階のオープンカフェ「まるごとやまなし館」のメニューの英語化に取り組み、完成後は実際に同館において使用されている。2017 年度に甲府市朝日の蕎麦店「庵」さんのメニューの英語化に取り組んだのと同じく、高校生の持つ英語力により地域貢献を行ったものである。2019 年 3 月 13 日（水）に行われた本学での報告会の様子は、地域のケーブルテレビ局である NNS 日本ネットワークサービス（11ch）による取材を受け、3/22(金)11:00～「情報 MAX はやべん」（再放送 20:00～）にて放送された。また、4 月 22 日（月）には山梨日日新聞社による取材を受け、近々記事となる予定である。

（文責 伊藤智基）

(3) 身延高等学校との高大連携事業

2018年度は、高校卒業後に町内で就職することを予定している身延高校生に向けたリーフレット「身延で働きたいあなたへ」を作成した。同リーフレットは、「ステップ1 会社の求人情報を比べる」と「ステップ2 そこで働く人にとって話を聞く」の2部構成となっている。

ステップ1では、身延高校に寄せられている町内の求人情報18社を一覧で示すとともに、基本給・通勤手当・賞与・休日数・休日の曜日・就業時間・時間外労働時間といった項目を抽出・比較し棒グラフを用いて比較した。すなわち、1社の求人情報を単体で見ているだけではその企業の労働条件の特徴・良し悪しを掴むことができず、高校生にとって企業を選択する判断基準となりえないという問題意識の下、ステップ1においては、各種の企業のデータを相互に比較することにより、①各社で労働条件にバラつきがあることを明らかにするとともに、②「他の企業に比べて基本給が多いな」とか「年間休日は110日から120日としている会社の数が多い中で、この企業は120日以上なので恵まれているな」といった特徴を見出すことができたようにしたわけである。このように企業の求人情報を収集して項目ごとに比較して傾向を見出すことは、データ分析という手法の初歩的なものとして位置づけられ、しかも高校生でもできるものであるものの、高校での教育において明示的に取り組む機会は少ないことから、この取り組みは大学と連携するからこそなされたものとして大いに意義を有するところである。

ステップ2においては、高校生が、身延町役場職員・薬剤師・介護士・機械加工業社員に実際に会ってインタビューしその内容を整理して示すとともに、職場の雰囲気や働く人が感じているやりがいといった、求人サイトや求人情報だけでは分からない内容について、実際にそこで働いている人にとって初めて分かる内容も多いということを明らかにした。

このリーフレットは、同種のものでこれまで世の中に存在していなかったため新規性が高い取り組みであるとともに、就職指導に当たる身延高校の教員から高い評価を得たのみならず、山梨県立大においても非常に評価が高く大学生向けに同種のリーフレットがあればいいのという声も寄せられたほどである。

(文責 伊藤智基)

4. 教員の地域貢献活動への支援

(1) 教員への支援メニューの策定・周知

前年度に続き、教員が自主的に行う地域貢献活動を促進するために、教員を対象とした支援メニューを周知、実施した。周知したメニューは以下の通りである。

(a) センター主催の「地域交流・貢献活動」としての採択・実施

本学教員が主体的に企画・実施する県内特定地域での交流事業を対象とする。内容に応じ

て、旅費、消耗品などを支援する。

(b) センター「支援事業」の認定・支援

センターの「支援事業」として認定し、報道機関への情報提供、センターのウェブサイトを通じた広報など、可能な範囲で支援する。

(c) センター「後援」等の名義の使用

名義使用により、センターがその趣旨等に賛同している旨の対外的表示ができる。教員が主体的に関与する事業のほか、学外団体から協力を依頼された事業で、本学の地域貢献として賛同・応援の意志表明をするにふさわしいものを対象とする。

(d) 学生ボランティアの募集協力

「学生活動支援室」を平成 19 年度に開設し学生による地域貢献活動の推進を行っている。この「支援室」を通じ、本学での学生ボランティア参加者募集等に協力することができる。

(e) その他

上記以外の支援メニューについても、今後検討していく。具体的なご要望などがあれば相談を受け付ける。

(文責 青柳暁子)

5. 学生による地域貢献活動への支援

(1) 「学生優秀地域プロジェクト」の認定・支援

「山梨県立大学地域研究交流センター『学生優秀地域プロジェクト』認定・支援制度」を平成 20 年 6 月に定めた。これは本学学生の又は学生団体が地域において実施する事業で、地域および本学に対してすぐれた貢献をしたものを認定し、本学学生による地域課題解決のための継続的な活動を推進することを目的としたものである。認定されたプロジェクトは、本学ウェブサイトにも広報するほか、センターが可能な支援を行う。

実施要綱に基づき、平成 30 年度認定プロジェクトの選考を以下のプロセスで実施した。

(a) 教職員からの推薦

実施要綱では推薦の資格を有するのは本学教職員となっている。平成 30 年 12 月に教職員からの推薦を募った。その結果、3 件のプロジェクトが推薦された。

表 平成 30 年度 学生優秀プロジェクト 認定一覧

	プロジェクト名	実施主体
1	未来へつなげ！山梨の伝統『甲斐絹』を『うちわ・扇子』で	合同会社飯田甲斐絹堂学生グループ
2	こどものひろば	甲斐縁隊
3	障害者団体ピーチ&グレープへの旅行支援	MOTTAINAI

(b) 選考委員会による選考

センター長が組織した選考委員会において選考を行った。選考委員会のメンバーは、二戸センター長、青柳准教授、伊藤准教授、須田講師、事務局から牧野リーダーの 5 名であった。

平成 31 年 1 月 8 日に選考委員会が開かれ、協議の結果 3 件のプロジェクトの認定が決定された。

(c) 認定

認定式を平成 31 年 1 月 31 日 12:30~12:50 に飯田キャンパス A 館 2 階大会議室にて開催した。

(2) 「学生活動支援室」の活動

平成 19 年度より設置している「学生活動支援室」により学内に設置した掲示板を通じて、大学・教員に寄せられる学生ボランティア募集などの情報の学生への情報発信を行った。

(文責：青柳暁子)

6. 大学周辺自治会との連携

(1) 地域自治会との懇談会

平成 30 年 11 月 13 日 (火) 午前 11 時～飯田キャンパス A 館 6 階 サテライト教室にて穴切地区・池田地区自治会連合会との懇談会を開催した。

穴切地区からは 10 名、池田地区からは 5 名の自治会長、大学からは学長、理事、センター長など 10 名が出席した。

懇談会では以下について報告があった。

- (1) 自治会行事等への学生の参加状況について
- (2) 地域研究交流センターの今年度事業について
- (3) 池田地区「ソーシャルデザイン入門」についての報告

また、穴切地区鶴巻台東の自治会長からの提案（地域住民の集いの場構想について）があった。

(文責 青柳暁子)

(2) 鶴巻台西自治会住民と学生の交流

山梨県立大がサークル MOTTAINAI は、平成 24 年 6 月より、県立大学飯田キャンパス近隣（グラウンド南側）の鶴巻台西自治会の高齢者との交流事業を続けている。

平成 30 年度は下記の活動を行った。

6/23 地域交流

3/1 地域交流（ほうとう作り）



7. 池田地区総合防災訓練への参加・協力

2018年度 池田地区総合防災訓練における活動報告

本活動は今年度で8回目となり、本学の地域研究交流センター事業において、地域交流・支援の大きな位置づけとなる活動である。本学は協力・指導団体として、池田地区連合自治会主催の総合防災訓練の企画会議（7月24日実施）から参加し、地域住民のニーズに合わせたプログラムでの訓練（応急処置・AED訓練）を担当することとなった。

本学教員及び看護学部学生に対して、ポスター・声がけにより、ボランティアとしての参加を募った。訓練を担当する教員へは事前の説明と共にAED訓練実施にあたってのデモンストレーションを行った。さらに当日は、4会場毎の自治会代表者と教員・学生が綿密な打ち合わせを行った上で訓練を実施した。当日の訓練内容は以下のとおりである。

1. 日時：2018年8月26日（日）8:30～11:30
2. 場所：池田小学校、西部市民センター、甲府西高等学校、甲府城西高等学校の4か所
3. 訓練担当者：本学看護学部教員及び学生

【教員8名】渡邊輝美、小山尚美、小尾栄子、塚原まゆみ、岡千尋、野澤由美、茅野久美、須田由紀

【4年生12名】（女子）伊藤帆香・上野朱音・長田捺央・勝俣美空・金丸美奈子・窪田知佳・齋藤あすか・古家美貴・山本葉月 （男子）今井航希・柄澤拓望・久保峻佑

4. 参加者：本学看護学部教員及び学生

【災害支援】教員：清水恵子、村松照美、渡邊裕子、長坂香織、前澤美代子
学生：1年生74名

5. 内容

池田地区総合防災訓練には、599名の地域住民が参加した。応急処置・AED訓練へのおおよその参加者については、池田小学校・甲府城西高等学校が120名、西部市民センター・甲府西高等学校が90名であった。教員と学生が協働し、全ての会場で『災害時に活用できる応急処置の知識と技術』に関する訓練を実施した。用意したパンフレット（「おぼえておこう災害時の応急処置」）を住民に配付し、それに基づいて応急処置や救護の知識と技術等について指導した。身近にあるタオルやストッキング、段ボール等を活用した止血や創部の固定、レジ袋を代用した三角布の作成等に住民の関心が高かった。これに加え池田小学校、西部市民センター、甲府西高等学校では『負傷者への意識確認・胸骨圧迫・AED使用』についての訓練を実施した。負傷者発見時の配慮点、AEDの年齢に応じた使用方法や管理に関する質問等も活発で、胸骨圧迫についてモデル人形で積極的に体験する住民もおり、大変満足された様子であった。住民の感想として、「昨年やったことでも忘れていたことも多い。毎年練習することが大切」「日頃の備えは大事。防災用のリュックの点検をします」「（AEDに使用期限があることを知り）自分達の地区に設置してあるAEDが使用可能か確認しようと思います」等の意見が聞かれた。

また、昨年度から本学の授業「災害支援」の一環として、池田及び穴切地区の防災訓練に看護学部教員1年生の学生が参加しているが、池田地区は74名の学生が参加した。学生達

は、訓練に参加し住民と交流することを通して「地域住民の一人であることを認識した」「日頃からの訓練が大切」ということを学んでいた。



(文責 須田由紀)

8. 「池田地区健康祭り」への参加・協力

「第29回池田地区健康まつり」への参加・協力における活動報告

2019年3月3日（日）に甲府市西部市民センターで開催された「池田地区健康まつり」に、看護学部の3年次学生13名と教員12名が参加・協力した。池田地区保健計画推進協議会からの依頼を受け、9年連続での参加・協力となった。地域住民93名の血圧・体組成・足指力・血管年齢・動作のすばやさ・転びやすさを測定した。タッチパネルによる認知機能評価は希望者のみの実施とした。教員に見守られながら学生がこれらの測定を担ったが、地域の方々とふれ合いながら、体調観察を行った上で測定することができた。また、学生は、打合せや前日準備にも意欲的に参加し、測定の看護技術のみならず、地域住民主体で実施される行事への協力・運営についても学びを深めることができた。

さらに、本学の学生及び教員、甲府市の地区担当保健師、甲府市西地域包括支援センターの保健師及び看護師と連携して健康相談コーナーを担当した。地域住民の測定結果をもとに、健康に関する相談に応じたり、パンフレットを用いて転倒予防体操や生活習慣病予防について指導したりした。

以上のことを行いながら、地域住民、学生および教員、甲府市の地区担当保健師、甲府市西地域包括支援センターの保健師及び看護師が交流を深めた。

今年も地域の方々は学生や教員の参加を楽しみにしてくださっており、測定結果と自身の生活を結び付け相談したりしていた。学生にとっては、様々な世代の方と話をしながら測定することによって、コミュニケーション技術に加え、個別性に合わせた測定技術力を向上させることができた。さらに、地域で健康に生活している方から直接お話をうかがうことによって、地域住民の生活実態から顕在・潜在するニーズを見極めたり、保健師から相談技術について学んだりする貴重な機会を得た。また、参加者の中には、大学での講義に協力してくださった経験者も多いため、学生も住民も教員も再会できたことを喜び、大学と地域の繋がりがさらに深まったことを確認できた。

看護学部が池田地区の地域住民にとって身近な存在として受け入れられていることに感謝し、今後もさらに地域との交流・協働ができるようにしていきたいと考える。

今回参加した学生と教員は、以下の25名である。

看護学部学生：池田怜奈・市川真子・伊藤なつみ・小林千波・坂本梨紗・鈴木祥加・平野（3年次学生） 朋香・松浦瑛徳・宮川真穂・村上萌花・山本京佳・横田楓・依田亮馬

看護学部教員：渡邊裕子・小山尚美・岡千尋・清水智嘉・三澤みのり・村松照美
渡邊輝美・小尾栄子・丹澤さやか・野澤由美・茅野久美・須田由紀

血圧測定



体組成・足指力測定



血管年齢測定



動作のすばやさ測定



転びやすさ測定



認知機能評価



健康相談



健康相談



(文責 須田由紀)

9. 穴切地区防災訓練への参加・協力

30年度穴切地区防災訓練救急蘇生訓練の協力

日時：平成30年8月26日（日）8:00～12:00

場所：西中学校、穴切小学校跡

協力者：教員：青柳暁子

学生：福祉コミュニティ学科4年 清水彩香、望月遥乃

今年度は30年に一度の甲府総合防災訓練が穴切地区で行われた。

防災訓練には様々な組織（自衛隊、甲府市、消防隊、医師会など）が参加し、様々な訓練が行われた。

穴切地区で行われる毎年の訓練は8時35分から行われ、初期消火訓練、非常用貯水槽からの水汲み揚げ訓練、救急蘇生法訓練、炊き出し訓練が同時並行で行われた。

例年は救急蘇生法に関して100～200名前後の住民が一斉に訓練に参加する状況であったが、今年は様々な訓練が同時並行で行われていることや猛暑の影響もあり、30名前後が参加した。参加者はそれぞれ熱心にAEDの使い方や胸骨圧迫を行っていた。また人数が少ないことから気軽に質問できる環境であったため、「水でおぼれた場合のAEDの使い方は？」「胸骨圧迫の際に服を脱がすかどうか」「人工呼吸は必要ないか」など、様々な質問が参加者からあった。

学生も熱心に指導を行った。参加者からの質問に一生懸命に対応し、AEDの使い方や胸骨圧迫の指導を行った。また学生は訓練終了後、大規模な防災訓練を見学したり、体験をおこなったりしていた。

課題としては今年は猛暑であり、水分は麦茶などが用意されてはいたが屋外での訓練が多く、熱さによる身体の危険を感じた。住民・学生ともに気候や状況に配慮したフレキシブルな対応が必要であるとする。



（文責：青柳暁子）

10. 「第 21 回山梨チャリティーラン 2018」へのボランティア参加

今年も、障害児のサマーキャンプの資金集めのために 2018 年 6 月 9 日に開催された。

「第 21 回山梨チャリティーラン 2018」で、本学学生 25 名が代走ボランティアとして参加した。

このチャリティーマラソンは、山梨ⅧCA・甲府ワイズメンズクラブ・山梨日日新聞・山梨放送などが実施している、伝統ある県内最大のチャリティーマラソンである。

山梨 YMCA からの要請で、同大会への資金援助は可能だが、どうしてもランナーが集まらない企業のゼッケンを付け、代走者として参加した。本学から派遣した学生数は、他大学と比較し群を抜いて多く、また多くの外国人留学生が含まれており、主催団体から高い評価を受けた。

(文責：吉田均)

11. 年報の発行

この『年報』は、地域研究交流センターの事業実績を年度ごとにまとめたもので、地域研究交流センターの活動内容を紹介する際の資料として、あるいは自己点検評価等の資料として活用されている。2009 年度までは年度末に発行してきたが、2010 年度からは次年度の 5 月に発行することとした。今年度も、計画通り『2017 年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を 2018 年 5 月 31 日付けで発行することができた。

(文責 青柳暁子)

12. ニュースレター「tobira」の発行

地域研究交流センターニュースレター「tobira」は、本学と地域を結ぶ機関紙であり、本学教員あるいは学生による、地域における研究活動、地域貢献活動、地域住民・関係機関・自治体等との連携事業を広く県内外に情報発信する役割を持っている。これまでは、ほぼ以下の紙面構成で発行してきた。

- * 「私の研究室」：本学教員の研究活動・成果の紹介
- * 「地域とつながる」：本学の地域連携・地域貢献事業の紹介
- * 「私たちの一歩!」：学生による地域貢献活動の紹介
- * 「講座・イベントのお知らせ」：講座・イベント等の告知

2010 年度からは(第 11 号以降)、「tobira」という誌名のもと、デザインと内容を一新し、取材・執筆・編集の多くの部分を学外編集者に委託することで内容の充実を図った。2011 年度からは(第 13 号以降)年 3 回発行してきたが、2016 年度から年 2 回の発行となった。大学の学年暦に合わせて、前期および後期の初めに発行することができた(第 32、33 号)。

発行部数は各回 4000 部で、県関係、市町村、文化施設、県内大学、実習先(病院・福祉機関・幼稚園・保育所等)、企業、県内非営利活動法人、県内高校、等である。

また、ウェブサイトの本機関紙をのせ、多くの人々に発信した。

各号の概要は以下の通りである。

(1) ニュースレター「tobira」第32号(2018年6月29日発行)

*「私の研究室」高木寛之講師(人間福祉学部):「人生は出会いは価値との出会い」と題して、

地域福祉を基盤とした研究と実践について述べて頂いた。

*「地域とつながる」:二戸麻砂彦教授、伊藤智基准教授(国際政策学部):「高大連携事業で育てる高校生の自信」と題して、甲府城西高校と本学との高大連携事業の取り組みについて紹介頂いた。

*「私たちの一歩!」:アロマサークル『アロモア』の活動 清水真結(看護学部生)多くの人を引き付けるアロマの魅力と幅広さと題して、週1回行われる「アロマの知識と技術の勉強会」の紹介や清水さんの活動のきっかけについて紹介頂いた。

*「講座・イベントのお知らせ」:6月以降に開催予定の講座・イベント等の告知を行った。

(2) ニュースレター「tobira」第33号(2018年11月6日発行)

*「私の研究室」川元克秀教授(看護学部):文化帝国主義とハンセン病問題と題して、ハンセン病療養所とパキスタンでのフィールドワーク活動についてご紹介頂いた。

*「地域とつながる」里見達也准教授(人間福祉学部):「子どもたちに、保育者に、寄り添いながら共に成長する」と題して、スーパーバイズを行っている障害児通所支援事業キッズクラブひまわりサポートルーム「たけのこ GUNGUN」での活動についてご紹介頂いた。

*「私たちの一歩!」大沢華(国際政策学部学生):県立大の学生が創る学生のための学食運営と題して、学食が無くなった県立大学に学生主体の学食「glocal kitchen」の活動についてご紹介頂いた。

*「講座・イベントのお知らせ」:10月以降に開催予定の講座・イベント等の告知を行った。

(文責:青柳暁子)

13. ウェブサイトでの情報発信

本学のウェブサイト内に、地域研究交流センターのサイトを置き、センターの概要、生涯学習の案内、地域連携・支援の取り組み、地域研究、刊行物(年報・報告書・ニュースレター等)、活動記録等、各種の情報発信を行っている。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修等のイベントに関する情報は、随時タイムリーな情報発信となっている。また、センターが中心となって行った取り組み(講座・イベント・学生優秀地域プロジェクト等)を、そのつど「活動記録」として情報発信している。

(文責:青柳暁子)

生涯学習部門

1. 部門事業の概要

(1) 地域研究交流センター主催事業

地域の方々を対象に大学の教育・研究成果発表、及び県民の知的関心に応えるための講演会を企画・開催した。

- ① 観光講座
- ② 秋季総合講座

(2) 地域連携講座事業

地方自治体その他の団体等の委託等を受けて、本学教員が各種講座を企画・実施した。

- ① やまなしの「創生」講座
- ② 日本語・日本文化講座
- ③ 子育て支援員認定研修会
- ④ やまなし市民後見人養成基礎講座（第5期）

(3) 学部共催事業

- ① 看護学部「健康講座」
- ② 人間福祉学部「保育リカレント講座」
- ③ 国際政策学部「山梨政策フォーラム」
- ④ 国際政策学部「戦後文学への招待」

2. 部門事業の実績と課題について

本年度は3区分10種類の事業が企画実施された。複数回シリーズで実施される企画が多く、参加アンケートによると概ね良い評価を得ている。それぞれの講座を担当する講師をはじめ、スタッフとして企画を支えた生涯学習部門委員および共催する地域の団体や自治体の尽力に対して謝意を表したい。

【生涯学習部門の個別事業】

1. 地域研究交流センター主催事業

(1) 観光講座

- ① テーマ：「歴史科学的に山梨をひも解く」
- ② 趣旨：山梨県内には自然及び人文分野のいずれにおいても、第一級品が豊富に存在し、観光資源としても寄与しています。これらのユニークな特徴や成り立ちなどにつき、本年度は、「歴史科学的に山梨をひも解く」と題するテーマで、多分野からの話題を用意し、例年のように県立大学講堂で座学の形式で4回を講演形式で行い、さらに最終回には観光講座としては新企画になる、現地視察を企画しました。
- ③ 対象：一般県民
- ④ 講演内容と参加者数：
第一回：平成30年7月29日(午後1時～午後4時半) [参加者64名(当日受付0名)]
1—1：縄文時代とは何か～日本列島における山梨の縄文文化・・・岡村道雄(元文化庁主任調査官)
1—2：山梨の古代文化を石から探る・・・保坂康夫(山梨県考古学協会)

第二回：平成30年9月2日(午後1時～午後4時半) [参加者61名(当日受付9名)]
2—1：日本列島形成史から山梨県内の扇状地形を読み解く・・・興水達司(山梨県立大学)
2—2：ヒトと自然が作り出した山梨県の昆虫相・・・小粥隆弘(オオムラサキセンター)

第三回：平成30年9月30日(午後1時～午後4時半) [参加者64名(当日受付6名)]
3—1：広重の歩いた身延道～甲府城下から富士川方面へ～・・・新津 健(山梨県考古学協会)
3—2：写真で読み解く半世紀前の山梨・・・中澤京子・小澤千寿子(NPO 地域資料デジタル化研究会)

第四回：平成30年10月14日(午後1時～午後4時半) [参加者63名(当日受付9名)]
4—1：柳沢吉保と甲府城～城内に新設された能舞台の姿とは～・・・西海真紀(甲府城研究会)
4—2：富士山の環境とその変化・・・仁田晃司(環境省富士五湖自然保護官)

第五回：平成30年10月28日(午前9時～午後4時半) [参加者43名(抽選による)]
観察会：バス1台にて講座参加者と現地視察(北杜市ひまわり公園周辺～昇仙峡周辺)

・・・・・・・・・・自然系の解説（輿水達司：山梨県立大学）

・・・・・・・・・・人文系の解説（新津 健：山梨県考古学協会）

⑤ 場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂

⑥ 実施状況：7月29日から10月28日まで5回の講座には、延べ295名の参加を数え、平均参加者数として59名になりました。このうち、5回目の参加者は、バス一台の定員という制約もあって、希望者多数の中で抽選によって43名が参加されました。抽選に漏れた方には、希望に添えられず申し訳ございません。特に動員を促すことなく、このように概して多くの参加があった背景には、このシリーズで実施してきた「富士山の世界遺産講座」や「南アルプス講座」の場合と同様に、科学的に価値の高い自然・文化が我々の身近にあり、これらを題材に取り入れたことで、強い興味・関心を抱かせたのかも知れません。

⑦ 参加者の感想

*この講座を通して興味深く伺い、この講座の知見を山梨の観光にもっと生かせないかと思った。

*申込方法がインターネットかファックスという事ですが、電話申し込みも有効という事にして頂ければありがたいと思います。ネット、ファックスのない者の為に！

*大変面白く聞かせていただきました。山梨を違った面から見て知っていかれます。学校で得た知識とちがっていました。

*縄文時代はとてもすばらしい時代だったのでは、と更に自分の目と耳で触れていきたいと思いました。

*特に自然災害の多い此の夏にタイムリーな内容で、大変興味深く聴きました。

*今回の講演テーマは全く違うものだと思っていましたが、構造線沿いに生き物が多くいるということを知り、地理・地質と生物は互いに深く関わりのあることを知り、おもしろかったです。

*とてもワクワクする研究でした。面白かったです。ありがとうございました。

*広重について山梨と関係がある（山梨へ来た）ことを全然知らなかったので理解できてよかったです。

*移住者である私には、広重の講演は地名の読み方も判らないことも多かったのですが、大いに助かりました。

*山梨には歴史のある街並が多い事を知り、面白いと感じました。

*現地講座はくじ引きということですが、多少お金を出しても良いので希望者全員が行けるよう次年度から検討して下さい。

*語り手の方は、もう少しよくようを付けて話した方が良かったのでは。

*貴重な資料の説明は良かったです。早口すぎて追いつけない。

*絵図、書物、発掘などから歴史が分かっていくのが楽しく感じました。

*富士山が傷ついていかにないように、温暖化を防ぐ生活をしなければと思いました。

*大変勉強になる講座で、資料をチェックしたり B4→A3 に拡大コピーしたり楽しんで

でおります。

*座学で教えて頂いた内容を、実地で、より深く理解できたと思います。是非また開催して欲しいです。

*屋外での特別講座（バス利用等）を年2回位実施してほしい。場合によっては有料でも良いのではないか。

*自然科学と人文をミックスした野外観察は、知的興味をかきたてるものでした。郷土の自然と文化（歴史）を知るよい機会だと思います。願わくは、希望者全員が参加できるように改善してほしい。

*移住して2年目です。山梨県を理解しようと参加しています。思っていた以上に広く、深く、勉強になっています。今までの内容を本にまとめてもらいたいと希望します。

⑧ 講座内容の情報公開：

今回の講演会および観察会の内容は報告書として本年度中に完成予定で作業を進め、同時に地域研究交流センターホームページには、このPDF版をアップする計画です。

今回の観光講座につき、多くの県民がこの企画に関心を持たれ足を運んでいただいた経緯から、この企画が県内観光推進の貢献になればと願って実施状況の報告とします。

(文責：興水達司)

(2) 秋季総合講座

- ① テーマ 「よりよく学び 生きるために」
- ② 日時 平成30年9月15日(土)
- ③ 場所 山梨県立大学 飯田キャンパス C館
- ④ 参加者 36名
- ⑤ 内容

1. 「思春期女性の健康は次世代の健康の礎」

看護学部 萩原結花 准教授

思春期から妊娠前の女性の健康が、子どもの一生の健康を左右するといわれています。やせている母親の子宮内の胎児は、栄養状態が悪い環境でも育つことができる身体の変化を起こします。それは受精直後からであり、妊娠したら健康に気を付けようでは遅いのです。未来の子どものために、思春期から適切に栄養をとって健康体を作りましょう。

2. 「あなたが認知症になったら?～認知症と共生する地域づくりのために」

看護学部 小山尚美 准教授

2025年には高齢者の5人に1人が認知症(予備群を含む)になると言われています。“認知症予防”も大切ですが、“認知症になったときに困らないように備えておくこと”も大切ではないでしょうか?本講座で“認知症への備え”を共に考えることが、認知症と共生する地域作りにつながっていくと考えております。

3. 「カナダで学ぶ、カナダで暮らす」

国際政策学部 二宮浩輔 教授

世界で二番目に広い国土に約3500万人の人々が暮らす国、カナダ。大自然に恵まれた多文化主義の国として知られていますが、日本に住む私たちにとっては、知っているようで実はあまり馴染みのない国でもあります。そんなカナダでの学びや暮らしについてご紹介します。

4. 「植物の力で地域を幸せに!～苔玉づくりのワークショップ～」

人間福祉学部 前川有希子 講師・五味武彦 非常勤講師

植物の開花や実りは、地域に暮らす多くの人が幸せな気持ちになります。子どもの成長に、植物はどのような影響をあたえるのか、障害者と植物はどのような関わりがあるのか、授業や実践活動の報告をします。山梨県農業大学校からのプレゼントがあるかも…。皆さんと幸せになりましょう。

- ⑥ 参加者：延べ85名

(文責：兼清慎一)

2. 地域連携講座

(1) 「やまなしの創生」講座

1. テーマおよび開催日：「やまなしの創生」（平成30年10月9日～12日）
2. 趣旨：大都市圏への一極集中が課題とされるなか、山梨の地域特性への理解を土台にして、山梨を豊かにする「地方創生」について考える講座シリーズを山梨県立大学、山梨経済同友会、山梨県生涯学習推進センターの連携講座として開催しました。
3. 対象：一般県民
4. 開催時間：午後6時～午後8時30分
5. 場所：山梨県防災新館
6. 主催：山梨県立大学・山梨経済同友会・山梨県生涯学習推進センター
7. 講演内容と参加者数：
第一回目：10月9日（月）
演題「山梨方言の商業的・社会的活用」・・・・・・・・山梨県立大学教授
二戸麻砂彦 [参加者41名]
演題「山梨県経済：現状・課題・可能性」・・・・・・・・日本銀行甲府支店長
長江 敬 [参加者39名]
第二回目：10月10日（火）
演題「人口減少問題と企業の人手不足解消のカギをにぎる『若者の地元定着』～3つのキーワード『知る・聞く・伝える』～」
・・・・・・・・山梨中銀経営コンサルティング 経済調査部長 岡本新一 [参加者39名]
演題「大地に記録された山梨の自然の変遷とその多様性」
・・・・・・・・山梨県立大学特任教授 輿水達司 [参加者35名]
第三回目：10月11日（水）
演題「山梨の地域課題解決のための『つなぐ・つながる・つなげる』動き～移住相談の現場から～」・・・・・・・・やまなし暮らし支援センター移住専門相談員 倉田貴根
[参加者39名]
演題「地域の魅力を世界へ！～山梨県地域通訳案内士の活用方法をお教えします～」
・・・・・・・・山梨県立大学教授 吉田 均 [参加者32名]
第四回目：10月12日（木）
演題「2019年に向けた経済・金融市場の動向：米中間選挙後の世界」
・・・・・・・・SMBC日興証券株式会社金融財政アナリスト 末澤豪謙 [参加者37名]
演題「あなたの財産、誰に託しますか？～山梨に必要な見守り社会と金融機能～」
・・・・・・・・山梨県立大学教授 澁谷彰久 [参加者31名]
8. 実施状況：この企画は、県立大学が山梨経済同友会・山梨県生涯学習推進センターとの連携による講座として、山梨県防災新館を会場に、夜間において実施したものです。夕方6時の開始で、休憩の10分を挟み、約2時間30分の講演（講義）を2名が担当し、

4日間で8名の講師で組み立て、それぞれの講演の終了時に時間が許す中で、参加者との質疑の交流もありました。

なお、参加者へのアンケート結果のうち、参加者の年齢構成と職業は以下のとおり。

(1)：参加者の年齢

月日	19才以下	20～30代	40～50代	60代	70才～	未回答	計
10/9	0	13	12	4	3	1	33
10/10	0	7	15	6	4	1	33
10/11	0	11	12	1	3	3	30
10/12	0	15	11	2	2	1	31
合計	0	46	50	13	12	6	127
	0%	36%	39%	10%	9%	5%	

(2)：参加者の職業

月日	会社員	自営業	パート	学生	専業主婦	無職	その他	未回答
10/9	25	1	0	0	0	4	0	3
10/10	19	2	0	0	1	7	2	2
10/11	15	0	0	1	1	5	3	5
10/12	21	0	0	0	1	4	2	3
合計	80	3	0	1	3	20	7	13
	63%	2%	0%	1%	2%	16%	6%	10%

9：参加者の感想：

- *方言の実態、山梨の経済について詳しく学ぶことが出来、勉強になった。
- *山梨の将来性、可能性を知ることができた。
- *研究途上であり、結論がはっきりしない。全体的に判り易くまとまっており、満足できた。*開始時間をもう少し遅く設定していただきたい。仕事終わりに参加するので。
- *わかりやすい説明だった。但し自論が多かったように思う。興味を持てる内容であったが、全体のまとまりが欠けていたと思う。
- *いろいろな発見があっっておもしろかった。
- *本日の2コマとも知らなかったこと、知りたいことの両方をお話いただきました。「目から鱗」がたくさんありました。
- *データ数、事例数が少ないので客観性に欠けると感じた。5000人が流出している状況をしつかりと認識し、都内から35人分のデータをもって、20～40歳代の人に移住しているというのは強引すぎます。

*人口増加については行政が本腰を入れなくてはと思いました。(教育、就業、日常生活など) *仕事に役立つ

*経済の見通しについて参考になった。成年後見人制度の実態、課題について勉強になった。*非常にタイムリーな内容で専門性が高く有意義であった

(文責：興水達司)

(2) 日本語・日本文化講座

- ① 目的：甲府市内在住外国人のためのレベル別日本語教室
- ② 日時：平成30年5月～平成31年3月までの毎週日曜（13時～15時）
- ③ 場所：山梨県立大学飯田キャンパス
- ④ 内容：文法、会話、作文、朗唱、質疑応答、文化講座「雅楽」「書道」など
- ⑤ 主催：山梨県立大学、甲府市
- ⑥ 実施状況

参加者（延べ）：346名

参加者国籍：16の国・地域 <台湾 42、ペルー29、ボリビア 13、アメリカ 11、中国 10、
ベトナム 8、ブラジル 7、インドネシア 5、韓国 4、ルーマニア 3、フィリピン 3、タイ 2、インド 2、イラン 1、日本 11>

(文責：兼清 慎一)

(3) 子育て支援員認定研修会

- ① 目的：
地域において子育て支援の仕事に関心を持ち、子育て支援分野への各事業等に従事することを希望する方に対し、必要となる知識や技能等を習得するための全国共通の子育て支援研修制度が創設されました。本研修は、これらの支援の担い手となる子育て支援員を養成することを目的としています。
- ② 実施日：基本研修：平成30年8月28日（火）、29日（水）の2日間
専門研修：平成30年9月11日（火）、14日（金）、15日（土）、
21日（金）、24日（月）、26日（水）の6日間
- ③ 実施場所：山梨県立大学 飯田キャンパス
- ④ 主催：山梨県立大学、山梨県
- ⑤ 実施内容：

A【基本研修】
子ども・子育て家庭の現状
子ども家庭福祉
子どもの発達
保育の原理
対人援助の価値と倫理
子ども虐待と社会的養護
子どもの障害
総合演習
B【専門研修】－(地域保育コース共通)
乳幼児の生活と遊び
乳幼児の発達と心理
乳幼児の食事と栄養
小児保健Ⅰ
小児保健Ⅱ
心肺蘇生法
地域保育の環境整備
安全の確保とリスクマネジメント
保育者の職業倫理と配慮事項
特別に配慮を要する子どもへの対応(0～2歳児)
グループ討議
実施自治体の制度について(任意)
C【専門研修】－(地域型保育)
地域型保育の概要
地域型保育の保育内容
地域型保育の運営
地域型保育における保護者への対応
見学実習オリエンテーション
見学実習(講義・演習に代える)

⑥ 参加人数

- ・基本研修61名(8月28日:61名 8月29日:61名)
- ・専門研修63名(9月11日:63名 9月14日:63名 9月15日:63名
9月21日:63名 9月24日:63名 9月26日:62名)

(文責:兼清 慎一)

(4) 平成30年度やまなし市民後見人養成基礎講座(第5期)

① 概要

【第1回】平成30年12月1日(土)イントロダクション2:00~16:30(開場11:30)

「市民後見人の概要と地域における後見人の役割」

講師:リーガルサポート山梨 小林 恵 氏(司法書士)

【第2回】平成30年12月8日(土)13:00~16:30(開場12:30)

「後見制度と民法」

講師:松本 成輔 氏(弁護士)

【第3回】平成30年12月15日(土)13:00~16:30(開場12:30)

「社会福祉協議会等の活動からみた市民後見」

講師:宮沢 秀一 氏(社会福祉士)

【第4回】平成30年12月22日(土)13:00~16:30(開場12:30)

「障害者への理解と市民後見活動」

講師:柳田 正明 氏(山梨県立大学人間福祉学部教授)

NPO 法人みつばのくろーばー 堀内 直也 氏(社会福祉士・介護福祉士)

【第5回】平成31年2月2日(土)13:00~16:30(開場12:30)

「高齢者の理解と対応方法」

講師:小山 尚美 氏(山梨県立大学看護学部講師)

【第6回】平成31年2月9日(土)13:00~16:30(開場12:30)

「地域に根差す市民後見人誕生に向けて」

講師:山口 綾 氏(甲府市家庭裁判所 主任書記官)

二塚 綾 氏(甲府市社会福祉協議会)

② 場所

山梨県立大学飯田キャンパス C101教室(C館1階)

〒400-0035 甲府市飯田 5-11-1

③ 成果

本年度は上記講座を開講し、43名(昨年比9名増)の受講生が研修修了した。平成 25 年度より地域連携の一環として人材育成に取り組み、1期からこの5年間で延べ165名の受講生が修了している。

昨年度から、山梨県の受託事業となり、また、甲府市の市民後見人養成と連携した講義内容としている。今期からは、山梨市も新たに基礎講座として本講座を導入した。今後、市民後見人を地域で養成するために必要な基礎知識の習得を目的とした養成講座として、他の市町村への拡大が期待される。

成年後見制度は、現在、新たな利用促進基本計画を各自治体で策定することが求められ、後見人の役割を地域で担うものとして「市民後見人」の養成は、高齢化と人口減少が進む県内において、これからも大学の重要な役割と考えられる。

(文責:澁谷 彰久)

3. 学部共催事業

(1) 看護学部健康講座「3世代交流 あなたも私もいきいき健康づくり」

- ① 開催趣旨：近年の核家族・高齢者世帯の増加により、多世代間交流の減少がみられ、近隣住民とのつながりも希薄化している。そのため、看護学部では例年、世代を超えた交流を深めることを目的とした健康講座を開催している。この講座により、自分の健康を振り返り、気軽に取り入れられる運動方法を身に着けること。さらには、互いに支えあえる地域づくりのため、多世代間での交流を図り「顔の見える関係」が構築されることを期待している。
- ② テーマ：「世代を超え交流を深めながらレッツウォーキング」
- ③ 開催日：平成 30 年 11 月 11 日（日） 9：30～11：45
- ④ 場所：山梨県立大学池田キャンパス体育館、荒川サイクリングロード
- ⑤ 主催：山梨県立大学看護学部、池田地区保健計画推進協議会
- ⑥ 講師：K2 ライフサポート 木村清先生 木村亜希子先生
- ⑦ 実施状況：ウォーミングアップとしてストレッチを行った後、アイスブレイクとして、自己紹介を交えたじゃんけんゲームを行うことで、参加者同士が交流でき、和やかな雰囲気のもと講座が始まった。その後、歩き方のポイント、日常の歩幅とウォーキングでの歩幅の違いや、心拍数の変化による運動強度を把握するための脈拍数の目安などの説明を受け、実際に計測することで実感を伴った学びができていた。休憩をはさみ、荒川サイクリングロードに移動し、学んだ歩き方を意識し、参加者同士で脳トレ問題を出し合うなどのコミュニケーションを図りながら、楽しくウォーキングを行った。アンケートの意見感想では「気持ちよく運動ができ、とても身体が楽になりました。」「歩き方や靴のこととか知ることができ、健康に気をつけようと思うきっかけになりました。」等の声が聞かれ、ウォーキングを「継続したいと思った」と、健康意識が高まったことが

伺えた。また、「いろいろな人と話ができて良かった」「県立大学生と話をしながら楽しくウォーキングができました」など、参加者が交流することで楽しみを感じ運動することができていた。「毎回参加しています。これからも継続してください」等、今後も参加を希望する声も多く聞かれ、健康講座を継続していくことの意義が感じられた。

- ⑧ 参加者：82名(池田地区56名、大学生10名、教職員9名、教職員家族・知人7名)、世代は幼児から80代までの幅広い年代の方々が参加した。
- ⑨ 今後の課題：今回、子どもの参加がおおよそ12%程度と少なかった。互いに支え合える地域づくりのための世代間交流の場として、子どもも参加できるように、学校にも周知する等、案内方法を検討していくことが必要である。



(文責：茅野久美)

(2) 人間福祉学部人間形成学科「2018 第8回保育リカレント講座」保育者のメンタルヘルスケアーストレスコーピングを中心に—

- ① 開催趣旨：人間形成学科が隔年で実施している保育リカレント講座では、地域の保育者が直面している課題の中からテーマを決め、山梨の保育の質を高める講座を継続的に展開している。県内の幼稚園教諭や保育士の研修の場としても活用されている。
- ② 開催日：2018年10月6日(土)13:30~16:00
- ③ 場所：山梨県立大学飯田キャンパス サテライト教室
- ④ 主催：山梨県立大学人間福祉学部人間形成学科
- ⑤ 後援：山梨県立大学 福祉・教育実践センター、山梨県立大学 地域研究交流センター
- ⑥ 内容：「保育者のメンタルヘルス」について、ストレスコーピングを中心に、東京経営短期大学こども教育学科准教授の池田幸代先生にご講義いただいた。保育者ストレスの現状・特徴についての詳しい説明に加えて、ストレス構造について、幼稚園教諭と保育士の違い、及び勤務歴による違いの解説があり、参加者(現場の保育士の方々)からの事例をもとに、ストレス構造の検証をしたり、学生の実習での経験の分析もいただいた。
- ⑦ 参加者：36名
- ⑧ 参加者からの意見・要望
 - ・職場での個々のストレスがたまりっぱなしで管理者として行き詰っていたので、とても勉強になった(保育者)
 - ・部外者でも保育者ストレス内容等理解できた。人の苦勞を知ることは大切だと思った。(一般)

・普段は子供の心理について学ぶことが多いので、保育者の心構えや精神状態の実態が学べて良かった。(学生)

・専門職としての根拠のある話を聞くことができ、リアルな内容がとても興味深いと感じた。(学生)

・保育士や幼稚園の先生は他の職種に比べてもストレスが多いとは聞いていたので、今回の講座でストレスの内容やより効果的なストレスの解消方法を知ることができて良かった。同じ子供のために働く者同士、気持ちを一つにしていく努力をすることが大切だと思った。(学生)

・保育者のストレスコーピングは一般の職業に就いているストレスコーピングと少し異なるのだということを今回知って驚いた。当たり前だと思っていた考え方が実は当たり前ではなかったのだということに気付くことができた。(学生)



(文責：村木 洋子)

(3) 国際政策学部「山梨政策フォーラム—甲府市の空き家対策の現況と課題」

- ① 開催趣旨：人口減少とあいまって増え続けている空き家問題は、人口減少とあわせて山梨県の喫緊の政策課題である。空き家率全国一位という現状が示すように、空き家の問題はまちづくりや地域活性化などはもちろん地域社会の存続において重大な課題である。この山梨政策フォーラムでは、空き家問題の現況と課題について協働の視点から理解を深める機会としたい。
- ② 開催日：平成30年12月13日（木） 13：00～16：30
- ③ 場所：山梨県立大学飯田キャンパス サテライト教室
- ④ 主催：山梨県立大学国際政策学部
- ⑤ 後援：甲府市
- ⑥ 内容
基調講演、法政大学法学部教授 宮崎伸光氏
「空き家問題の位置づけと政策的対応」
事例報告、甲府市空き家対策課 田中康弘氏
「甲府市の空き家対策の取り組み現況」
パネルディスカッション
「空き家問題に向けた地域的理解と合意形成」
法政大学法学部教授 宮崎伸光氏
甲府市空き家対策課 田中康弘氏
甲府市議会議員 神山玄太氏
本学国際政策学部准教授 申龍徹（司会兼コーディネーター）
- ⑩ 参加者：約30名

(文責：申龍徹)

(4) 国際政策学部「戦後文学への招待」

① 日時：2018年12月20日(土) 14:50～16:20

② 講師：井口時男(文芸評論家)

③ 会場：飯田キャンパス A館6階サテライト教室

④ 司会：大村梓(国際政策学部准教授)

⑤ 講演要旨：

文芸評論家として多数の著書(『柳田国男と近代文学』、『批評の誕生／批評の死』、『危機と闘争 大江健三郎と中上健次』、『暴力的な現在』、『少年殺人者考』、句集に『天來の獨樂』)を発表し、また東京工業大学でも長く教鞭をとっていらした井口時男先生を招いて戦後文学に関するお話をうかがった。戦後文学における詩歌の役割について桑原武夫、金子兜太等を例に挙げてご説明頂いた。

⑥ 参加者からの意見：

学内及び学外からの参加者も多く見られ、講演後には聴衆との活発な意見交換が行われた。講演後のアンケートにおいても、戦後の日本社会で文学者たちが自由な表現主体としての詩歌のあり方を模索していた様子がよく理解できたとの声が多く聞かれ、同様の講演会を希望する意見が見られた。県民の方々から文学に関する催しが本学に強く期待されていることがわかった。

(文責：大村梓)

地域研究部門

1. 部門事業の概要

地域研究交流センター（以下、「センター」という。）では、地域の現代的ニーズを踏まえた課題解決につながる研究、地域文化の発掘と活用、地域文化の創造につながる研究、地域に貢献する特色ある教育に関する研究を、3学部・研究科の教員から参加を募り、実施している。研究事業には、センターが重点的に取り組む必要があると認め、複数学部の教員が参加するプロジェクト研究と、それ以外で地域貢献に資する共同研究がある。

本部門はこの事業の実施のために、企画、募集、選考、予算決定、研究進捗管理、報告書作成、研究報告会開催、評価などに関わった。

2. 部門事業の実績と課題について

(1) 個別の研究事業

今年度の早い段階で、前年度に行われたセンター地域研究事業に係る評価を実施した。評価は評価委員会（学長、理事（3名）、各学部長（3名）、センター長、センター地域研究部門長の学内委員9名と学外委員1名の計10名）により行われた。学外委員には（公財）山梨総合研究所専務理事に就任いただいた。評価結果は、当該研究の代表者が引き続きセンター地域研究事業に応募した場合の研究の選考の参考とした。

今年度のセンター地域研究事業については、学内公募を行い、10件の応募があり、選考委員会による審査を経て、次に示す8件が採択され、実施された。

- 地域包括ケアシステム構築における地域づくりのための支援に関するプロジェクト
（代表：高木 寛之）
- 移動・移乗用介護ロボット等の導入プロセスの検証
（代表：前川 有希子）
- 山梨県における外国籍住民の保健医療福祉をめぐって ～主たる医療機関における医療通訳の実態と医療通訳者養成～
（代表：長坂 香織）
- 山梨県の小学校英語教育におけるインバウンド観光英語導入に向けた研究
（代表：高野 美千代）
- 子どもを亡くした親への地域での支援について
（代表：山下 恵子）
- 手でみるプロジェクト 2018～触察で鑑賞できる展示会の企画と運営～
（代表：古屋 祥子）
- 山梨県内病院の外来における在宅療養支援の実態

(代表：泉宗 美恵)

○多言語による高校進学ガイダンスの有効性

～ロールモデルと高校ブース設置による波及効果～

(代表：萩原 孝恵)

なお、個別の詳細な報告（論文等）については、本センターのホームページにて公開予定である。

(2) 研究報告会

2018年度の研究報告会を、3月13日（水）13:00～17:00に飯田キャンパスA館6階サテライト教室で開催した。延べ71名と多くの参加があり、8つの研究事業の報告と活発な質疑が行われた。また、今回も特別企画として「高大連携事業」の成果として、山梨県立甲府城西高等学校及び山梨県立身延高等学校の生徒がそれぞれ発表を行った。

(3) 実績と課題

今年度は、COC事業完了に伴い、昨年度より検討してきた、従来の地域ニーズを踏まえた、学部横断的・地域団体との共同で行う投稿形式の「共同研究」と、新たにCOC事業で展開されてきた地域との協働事業を担う大学で独自テーマを設定する「重点テーマ」の位置づけについて再検討を行った。

特に、新たに設定した「重点テーマ」の定義や意義について、共通理解を図るよう検討を重ねてきた。

その結果、「重点テーマ」を次のように定義した。

「Miraiサロン」（地域との対話の場）を開催し、関心のある本学教職員が集い、学部・分掌を超え、喫緊に地域から寄せられる課題解決の要望に対して、地域と一緒に課題解決に向けてそのプロセスから将来、地域主導型へ移行できることを目指した協働研究事業のことをいう。

さらに、その基準や手順についても下記のように設定することとした。

「地域研究事業のうち、当該研究を実施しようとする年度の前々年度の12月から前年度の11月までの間に本学が主催する「Miraiサロン（地域との対話の場）」において、解決すべき地域の課題として取り上げられたテーマのうち、当該研究の成果を地域に還元することにより、将来的に地域主導による当該課題の解決が図られるとセンター地域研究事業選考委員が認めたものをいう。

上記の定義及び基準や手続きのもと、1～2月に2019年度の公募を行った。その結果、1件の応募があり、3月の選考委員会（理事（研究担当）、各学部長（3名）、センター長、センター地域研究部門長の学内委員6名と学外委員1名の計7名）を経て、採択の運びとなった。

採択テーマ：

穴切地区をモデルとした持続可能なコミュニティにつながる高齢者活動拠点構築

今後は、さらに研究成果を地域社会に還元し、地域を支える行政や産業界、団体、NPO、教育機関、医療機関、福祉施設、住民の方々に、より一層ご活用いただくため、研究成果の効果的な発信をこれまで以上に心掛けていきたい。

(文責：里見達也)

事務局

1. 運営委員会記録

1. 第1回 平成30年4月17日(火)

主な協議・報告事項：運営委員会と部門配置について／平成30年度計画について／地域研究事業への参加者募集について／ソーシャルデザイン入門（集中講義）講義概要、実施報告について／地域研究事業「重点テーマ」研究運営委員の選出等／平成29年度地域研究事業評価委員会の開催について／笛吹市地域振興促進助成事業の講師依頼について

2. 第2回 平成30年5月22日(火)

主な協議・報告事項：平成30年度年度計画について／重点テーマの定義と基準について／「生涯学習部門」2018年度の課題と業務について／山梨県立大学受託事業取扱規程の制定に伴う地域からの相談への対応について／COC+等の実施に関わる会議の設置について／平成30年度地域研究事業選考委員会の開催について／地方創生支援事業費補助金の採択について／キャンパスネットやまなし企画運営委員について

3. 第3回 平成30年6月19日(火)

主な協議・報告事項：平成30年度年地域研究事業の重点テーマについて／穴切・池田地区自治会との懇談について／「秋季総合講座」について／無料アプリを使った情報発信について／平成30年度地域研究事業選考委員会の結果について／平成30年度観光講座の概要について／平成30年度第01回COC等検討会議の結果について／内閣府補助事業のMiraiプロジェクト+（プラス）について／2018年度計画策定について／山梨ROUND TABLE（学生討論会）参加者募集

4. 第4回 平成30年7月17日(火)

主な協議・報告事項：「重点テーマ」の取り扱いについて／「秋季総合講座」について／「教員の地域貢献活動」支援に関わる申請について／リカレント教育について

5. 第5回 平成30年9月25日(火)

主な協議・報告事項：『重点テーマ』の取り扱いについて／「秋季総合講座」について／平成30年度学部共催講座について／ニューズレター統合の検討について／平成30年度山梨経済同友会との「山梨学講座」に

ついて／「子どもの日本語教育研究会」後援支援に関わる申請／
「防災訓練の報告」について

6. 第6回 平成30年10月16日(火)

主な協議・報告事項：ニューズレター統合の検討について／地域研究交流センターに関わる補正予算について／2018 地域研究交流センター支援事業申請(看護学部長坂准教授)について／フューチャーセンター拠点整備に伴う地域研究交流センターの居室 A607, A608 の使用について／「山梨学(創生学講座)」の終了について／山梨日日新聞からの執筆依頼

7. 第7回 平成30年11月20日(火)

主な協議・報告事項：次年度の日本語・日本文化講座に関わる依頼について／地域研究交流センターに関わる補正予算について／学生優秀プロジェクトの募集要項確認と選考会日程調整について／フューチャーセンター準備会の設置について／認証評価訪問調査の終了について／法人評価委員会からの指摘事項等／「山梨学(創生学講座)」の終了報告／「看護学部健康講座 3世代、あなたも私もいきいき健康づくり／世代を超えた交流を深めながら Let's ウォーキング!」について

8. 第8回 平成30年12月18日(火)

主な協議・報告事項：次年度の当初予算について／地域研究事業の実施に関する要項改正／地域実践講座実施委員会の委員の推薦について／観光講座2018「歴史科学的に山梨をひも解く」の終了について／学内COC+事業検討会議の報告／池田地区の健康まつりについて／山梨日日新聞からの執筆依頼について

9. 第9回 平成31年1月22日(火)

主な協議・報告事項：重点テーマに関わる追加修正について／学生優秀地域プロジェクトの選定について／表彰学生の推薦について／表彰学生の推薦について／講座「いのちの授業」の依頼について／教員の地域貢献活動について／地域研究センター研究報告会について／2018年度年報について／2018年度研究報告書について

10. 第10回 平成31年2月19日(火)(書面)

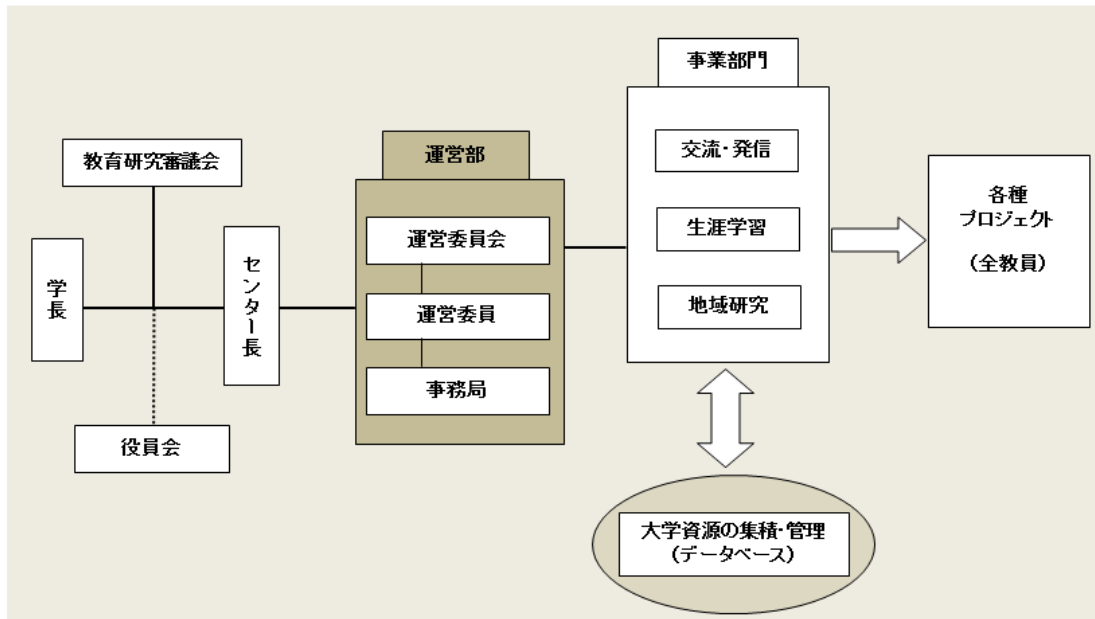
主な協議・報告事項：教員の地域貢献活動支援について／高大連携授業の成果物について

11. 第11回 平成31年3月13日(水)

主な協議・報告事項：教員の地域貢献活動支援について／重点テーマの選定結果について／「池田地区健康まつり」の終了について／高大連携授業「看護と福祉」(城西高校)／やまなし市民後見人養成基礎講座、日本

語・日本文化講座の終了について/平成 31 年度当初予算について/北杜市からの講師派遣依頼について

2. 組織図・委員名簿
 (1) 組織図



(2) 委員名簿(地域研究交流センター運営委員)

学部	学科	氏名	部門	専門領域
国際政策学部	総合政策学科	伊藤 智基	交流・発信部門	行政法、憲法、環境法
	国際コミュニケーション学科	二戸 麻砂彦	センター長	日本語学、言語学
		兼清 慎一	生涯学習部門長	メディア論
		杉山 歩	地域研究部門	観光情報学、サービス科学
人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	青柳 暁子	交流・発信部門長	介護福祉(生活支援技術)
		石垣 千秋	生涯学習部門	医療政策、政治学
	人間形成学科	里見 達也	地域研究部門長	保育学、教育学(特別支援)
看護学部	看護学科	野澤 由美	地域研究部門	精神看護学
		須田 由紀	交流・発信部門	地域看護学
		茅野 久美	生涯学習部門	老年看護学
地域研究交流センター特任教授		奥水 達司	地域研究部門	地質学、地下水学、地球環境科学

3. 年間の時系列記録

年 月 日	事業・行事名	部門名
2018年4月17日	第1回地域研究交流センター運営委員会	
2018年4月26日	地域研究事業評価委員会	地域研究
2018年5月13日	日本語・日本文化講座(1)	生涯学習
2018年5月20日	日本語・日本文化講座(2)	生涯学習
2018年5月22日	第2回地域研究交流センター運営委員会	
2018年5月27日	日本語・日本文化講座(3)	生涯学習
2018年5月31日	地域研究交流センター2017年度年報発行	交流・発信
2018年6月5日	地域研究事業選考委員会	地域研究
2018年6月10日	日本語・日本文化講座(4)	生涯学習
2018年6月17日	日本語・日本文化講座(5)	生涯学習
2018年6月19日	第3回地域研究交流センター運営委員会	
2018年6月24日	日本語・日本文化講座(6)	生涯学習
2018年6月29日	地域研究交流センターニュースレター「tobira」第32号発行	交流・発信
2018年7月1日	日本語・日本文化講座(7)	生涯学習
2018年7月8日	日本語・日本文化講座(8)	生涯学習
2018年7月17日	第4回地域研究交流センター運営委員会	
2018年7月29日	観光講座(1)	生涯学習
2018年7月29日	日本語・日本文化講座(9)	生涯学習
2018年8月26日	甲府市穴切・池田地区総合防災訓練への参加・協力	交流・発信
2018年8月28日	子育て支援員研修(1)	生涯学習
2018年8月29日	子育て支援員研修(2)	生涯学習
2018年9月2日	観光講座(2)	生涯学習

年 月 日	事業・行事名	部門名
2018年9月11日	子育て支援員研修(3)	生涯学習
2018年9月14日	子育て支援員研修(4)	生涯学習
2018年9月15日	秋季総合講座	生涯学習
2018年9月15日	子育て支援員研修(5)	生涯学習
2018年9月21日	子育て支援員研修(6)	生涯学習
2018年9月24日	子育て支援員研修(7)	生涯学習
2018年9月25日	第5回地域研究交流センター運営委員会	
2018年9月26日	子育て支援員研修(8)	生涯学習
2018年9月30日	観光講座(3)	生涯学習
2018年10月9日	山梨学講座(1)	生涯学習
2018年10月10日	山梨学講座(2)	生涯学習
2018年10月11日	山梨学講座(3)	生涯学習
2018年10月12日	山梨学講座(4)	生涯学習
2018年10月14日	観光講座(4)	生涯学習
2018年10月14日	日本語・日本文化講座(10)	生涯学習
2018年10月16日	第6回地域研究交流センター運営委員会	
2018年10月21日	日本語・日本文化講座(11)	生涯学習
2018年10月28日	観光講座(5)	生涯学習
2018年10月28日	日本語・日本文化講座(12)	生涯学習
2018年11月4日	日本語・日本文化講座(13)	生涯学習
2018年11月6日	地域研究交流センターニュースレター「tobira」第33号発行	交流・発信
2018年11月13日	地域自治会(穴切地区、池田地区)との懇談会	交流・発信
2018年11月20日	第7回地域研究交流センター運営委員会	

年 月 日	事業・行事名	部門名
2018年12月1日	やまなし市民後見人養成基礎講座(1)	生涯学習
2018年12月2日	日本語・日本文化講座(14)	生涯学習
2018年12月8日	やまなし市民後見人養成基礎講座(2)	生涯学習
2018年12月9日	日本語・日本文化講座(15)	生涯学習
2018年12月15日	やまなし市民後見人養成基礎講座(3)	生涯学習
2018年12月16日	日本語・日本文化講座(16)	生涯学習
2018年12月18日	第8回地域研究交流センター運営委員会	
2018年12月22日	やまなし市民後見人養成基礎講座(4)	生涯学習
2019年1月6日	日本語・日本文化講座(17)	生涯学習
2019年1月8日	学生優秀地域プロジェクト 選考委員会	交流・発信
2019年1月31日	学生優秀地域プロジェクト 認定式	交流・発信
2019年2月2日	やまなし市民後見人養成基礎講座(5)	生涯学習
2019年2月3日	日本語・日本文化講座(18)	生涯学習
2019年2月9日	やまなし市民後見人養成基礎講座(6)	生涯学習
2019年2月17日	日本語・日本文化講座(19)	生涯学習
2019年2月19日	第10回地域研究交流センター運営委員会	
2019年3月3日	甲府市池田地区健康まつりへの参加・協力(看護学部)	交流・発信
2019年3月3日	日本語・日本文化講座(20)	生涯学習
2019年3月13日	2018地域研究交流センター研究報告会	地域研究
2019年3月13日	第11回地域研究交流センター運営委員会	
2018年5月～2019年1月	甲府城西高等学校「福祉と看護」高大連携事業	交流・発信
2018年5月～2019年3月	甲府城西高等学校 高大連携事業	交流・発信
2018年5月～2019年3月	身延高等学校 高大連携事業	交流・発信



2018 にほん せいかつ がいきくにん のために
にほんご にほんぶんかこうざ
「日本語・日本文化講座」

ばしょ やまなしけんりつだいがく いいたき キャンパス かん かい
場所： 山梨県立大学 飯田キャンパス A館6階
こうふしいだ
 (甲府市飯田5-11-1)

じゆこうりよう むりよう きようざいひ じこふたん えん えん
受講料： 無料 (教材費は自己負担：2,000円～3,000円)

かいまいひ にちようび
開催日 (いずれも日曜日 13:00～15:00)

<small>がつ</small> 5月	<small>にち</small> <small>はつか</small> <small>にち</small> 13日、20日、27日
<small>がつ</small> 6月	<small>とおか</small> <small>にち</small> <small>にじゅうよつか</small> 10日、17日、24日
<small>がつ</small> 7月	<small>ついたち</small> <small>ようか</small> <small>にち</small> <small>ぶんかこうざ</small> <small>しよどう</small> 1日、8日、29日 (文化講座：書道)
<small>がつ</small> 10月	<small>じゅうよつか</small> <small>にち</small> <small>にち</small> 14日、21日、28日
<small>がつ</small> 11月	<small>よつか</small> 4日
<small>がつ</small> 12月	<small>ふつか</small> <small>ここのか</small> <small>にち</small> 2日、9日、16日
<small>ねん</small> 2019年	
<small>がつ</small> 1月	<small>むいか</small> 6日
<small>がつ</small> 2月	<small>みつか</small> <small>にち</small> 3日、17日
<small>がつ</small> 3月	<small>みつか</small> <small>ぶんかこうざ</small> <small>さどう</small> 3日 (文化講座：茶道)

For foreigners living in
 Japan, "Japanese
 language and Culture
 Course"

外国人生活在日本
 “日本語與文化課程”

일본에서 생활하는
 외국인을 위한 ‘일본어·
 일본문화강좌’

Para os estrangeiros
 que vivem no Japão
 “Curso de lingua e
 cultura Japonesa”

Para los extranjeros que
 viven en Japón “Curso
 de lengua y cultura
 Japonesa”

とひあわせさき
問い合わせ先

やまなしけんりつだいがく
山梨県立大学

しゃかいれんけいか
社会連携課

055-225-5412

しよくい やまなしけんりつだいがく / こうふし
主催：山梨県立大学 / 甲府市

れんけい やまなしけんりつだいがく がいこくにん じんけん ネットワーク
連携：山梨外国人 인권ネットワーク
おあしす
オアシス



山梨県立大学観光講座 2018

歴史科学的に 山梨をひも解く

山梨県内には自然及び人文分野のいずれにおいても、第一級品が豊富に存在し、観光資源としても寄与しています。これらのユニークな価値や成り立ちなどの話題を学術的に掘り下げ、山梨についてより深く知っていただけるように、山梨県立大学の観光講座では、専門家による講演を実施してきました。本年度は、「歴史科学的に山梨をひも解く」と題するテーマで、多分野からの話題を用意し、最終日には現地視察も企画しました。多くの皆様の参加をお願いいたします。

開催時間 午後1時～午後4時30分

受付は午後12時30分から

開催場所 山梨県立大学飯田キャンパス 講堂

(甲府市飯田5-11-1)



1回目 7月29日(日)

- 縄文時代とは何か～日本列島における山梨の縄文文化～…………… 岡村道雄(元文化庁主任調査官)
- 山梨の古代文化を石から探る…………… 保坂康夫(山梨県考古学協会)

2回目 9月2日(日)

- 日本列島形成史から山梨県内の扇状地形を読み解く…………… 奥水達司(山梨県立大学)
- ヒトと自然が作り出した山梨県の昆虫相…………… 小粥隆弘(オオムラサキセンター)

3回目 9月30日(日)

- 広重の歩いた身延道～甲府城下から富士川方面へ～…………… 新津 健(山梨県考古学協会)
- 写真で読み解く半世紀前の山梨…………… 中澤京子・小澤千寿子(NPO地域資料デジタル化研究会)

4回目 10月14日(日)

- 柳沢吉保と甲府城～城内に新設された能舞台の姿とは～…………… 西海真紀(甲府城研究会)
- 富士山の環境とその変化…………… 仁田晃司(環境省富士五湖自然保護官)

5回目 10月28日(日) ★:バスをチャーターして現地視察

甲府市内を出発し、北杜市にてパノラマ景観の中で、南アルプスや八ヶ岳などの大地形成史を一千万年スケールで理解をはかり、さらにこの高原地域にかつて繁栄した縄文文化について現地で説明を受ける。その後、昇仙峡地域に場所を移し火砕流や御影石などの活動史を理解しつつ、この地に特有な山岳信仰などの文化変遷に触れる。

参加申込

社会連携課

TEL.055-225-5412 FAX.055-225-1150

E-mail ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jpにてお申し込みください。

参加申込みにつきましては裏面をご覧ください

主催：山梨県立大学 地域研究交流センター

人はいくつになっても、
学び続けることで成長し、
学び始めるのに
遅すぎることはありません。
この機会に山梨県立大学を
訪れてみませんか？

【13:00~13:40】会場:C館C101教室

**思春期女性の健康は
次世代の健康の礎**

看護学部 萩原結花 准教授

思春期から妊娠前の女性の健康が、子どもの一生の健康を左右するといわれています。やせている母親の子宮内の胎児は、栄養状態が悪い環境でも育つことができ、身体の変化を起こします。それは受精直後からであり、妊娠したら健康に気を付けようでは遅いのです。未来の子どものために、思春期から適切に栄養をとって健康体を作りましょう。

よりよく学び
生きるために

【13:50~14:30】会場:C館C101教室

**あなたが認知症になったら？
～認知症と共生する地域づくりのために～**

看護学部 小山尚美 准教授

2025年には高齢者の5人に1人が認知症(予備群を含む)になると言われています。“認知症予防”も大切ですが、“認知症になったら困らないように備えておくこと”も大切ではないでしょうか？本講座で“認知症への備え”を共に考えることが、認知症と共生する地域作りにつながっていくと考えております。

【14:40~15:20】会場:C館C101教室

**カナダで学ぶ、
カナダで暮らす**

国際政策学部 二宮浩輔 教授

世界で二番目に広い国土に約3500万人の人々が暮らす国、カナダ。大自然に恵まれた多文化主義の国として知られていますが、日本に住む私たちにとっては、知っているようで実はあまり馴染みのない国でもあります。そんなカナダでの学びや暮らしについてご紹介いたします。

【15:30~16:30】会場:C館C102教室

**植物の力で地域を幸せに!
～苔玉づくりのワークショップ～**

人間福祉学部 前川有希子 講師
五味武彦 非常勤講師

植物の開花や実りは、地域に暮らす多くの人が幸せな気持ちになります。子どもの成長に、植物はどのような影響をあたえるのか、障害者と植物はどのような関わりがあるのか、授業や実践活動の報告をします。山梨県農業大学校からのプレゼントがあるかも……。皆さんと幸せになりましょう。

申し込み
先着30名!



[参加申し込み]

参加申し込みにつきましては、裏面をご覧ください。

[申し込み期限]

平成30年9月14日(金) 定員になり次第締め切ります。

[お問い合わせ]

地域研究交流センター(社会連携課)
TEL 055-225-5412

山梨県立大学 地域研究交流センター

秋季総合講座

参加
無料

2018年

9月15日 土

開催時間

13:00~16:30(12:30開場)

2018
第9回 保育リカレント講座
保育者の
メンタルヘルスケア
ーストレスコーピングを中心にー



講師：池田 幸代 先生

東京経営短期大学子ども教育准教授
修士（家政学）、修士（カウンセリング）、
臨床発達心理士

保育者のメンタルヘルスケアについて長年研究されている
池田幸代先生より、「ストレスコーピング」(ストレス対策法)を中心に、
保育者のストレスケアについてお話いただけます。

2018 **10/6** (土) 13:30~
16:00

会 場：山梨県立大学 飯田キャンパス A館6階サテライト教室

対 象：保育・教育関係者、一般、学生、その他

参加費：無 料

定 員：70名（メール・電話で申し込み受付）

問い合わせ・お申し込み先：山梨県立大学地域研究交流センター

☎055-224-5260 ✉ucrc-accept@yamanashi-ken.ac.jp

※ Eメールの場合、件名を「保育リカレント講座申込み」とし、お名前・ご住所・
電話番号をご記入ください。

主 催：山梨県立大学 人間福祉学部人間形成学科

共 催：山梨県立大学 地域研究交流センター

山梨県立大学 福祉・教育実践センター

山梨県立大学・山梨経済同友会・山梨県生涯学習推進センターによる連携講座

山梨学講座 山梨の創生を語る

大都市圏への一極集中が地方の課題とされるなか、山梨の地域特性への理解を土台にして、未来の山梨を豊かにする地方創生を考える4日間8回の講座シリーズです。講師に山梨県立大学の教員と山梨経済同友会の会員をはじめ、有識者の方々をお迎えし、学生と社会人が共に山梨の魅力や特性を学び、山梨創生の課題発見とその解決策を探ります。ふるさと山梨の未来を一緒に考えませんか。

- 開催：平成30年10月9日（火）～12日（金）
- 時間：18：00～20：30（①18：00～19：10 ②19：20～20：30）
- 会場：山梨県生涯学習推進センター・交流室AB
- 対象：一般県民・学生 70名 ■受講無料（要事前申込み）
- 申込：TEL、FAX、Mailにて、生涯学習推進センターまで
- 主催：山梨県立大学 山梨経済同友会 山梨県生涯学習推進センター



キャンパスネット
やまなし主催講座

10月9日
（火）
18：00～20：30

- ①「山梨方言の商業的・社会的活用」
講師：二戸麻砂彦氏（山梨県立大学教授）
- ②「山梨県経済：現状・課題・可能性」
講師：長江敬氏（日本銀行甲府支店長）

10月10日
（水）
18：00～20：30

- ①「人口減少問題と企業の人手不足解消のカギをにぎる『若者の地元定着』～3つのキーワード『知る・聞く・伝える』～」
講師：岡本新一氏（山梨中銀経営コンサルティング 経済調査部長）
- ②「大地に記録された山梨の自然の変遷とその多様性」
講師：輿水達司氏（山梨県立大学特任教授）

10月11日
（木）
18：00～20：30

- ①「山梨の地域課題解決のための『つなぐ・つながる・つなげる』動き～移住相談の現場から～」
講師：倉田貴根氏（やまなし暮らし支援センター移住専門相談員）
- ②「地域の魅力を世界へ！～山梨県地域通訳案内士の活用方法をお教えます～」
講師：吉田均氏（山梨県立大学教授）

10月12日
（金）
18：00～20：30

- ①「2019年に向けた経済・金融市場の動向：米中間選挙後の世界」
講師：末澤豪謙氏（SMBC日興証券株式会社金融財政アナリスト）
- ②「あなたの財産、誰に託しますか？～山梨に必要な見守り社会と金融機能～」
講師：澁谷彰久氏（山梨県立大学教授）

申込み・
問合せ

山梨県生涯学習推進センター

〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館やまなしプラザ内
TEL：055-223-1853 FAX：055-223-1855
E-Mail：llcenter@yamanashi-bunka.or.jp
HP：http://www.manabi.pref.yamanashi.jp/center/



Twitter Facebook
「山梨県生涯学習推進センター」で検索



HP Facebook Twitter

山梨県立大学 地域研究交流センター

共催：池田地区保健計画推進協議会

看護学部 健康講座

3世代、あなたも 私も

いきいき健康づくり

世代を超えた交流を深めながら

Let's ウォーキング!

平成30年 **11月11日**(日)

9:30~11:45 受付 9:00~

場所：山梨県立大学 池田キャンパス 体育館

講師：木村 清氏 木村 亜希子氏

(K2 ライフサポート)

お子さんからシニアの方まで、県内のどなたでも参加できます！
世代を超えて交流しながら、みんなでたのしく体を動かしませんか。
健康づくりのための正しい歩き方を練習し、屋外をウォーキングします☆
＜持ち物＞体育館履き、帽子、タオル、飲み物
＜服装＞動きやすい服装、運動靴

参加申込み
お問い合わせ

窓口：山梨県立大学 看護学部
TEL:055(253)7780 FAX:055(253)7781
Eメール:ucrc-accept-n@yamanashi-ken.ac.jp
☆FAX またはメールの場合

件名に「健康講座」、本文に「お名前、ご年齢、
参加人数(大人・子ども)、ご連絡先」をご記入下さい。

参加無料

平成30年度山梨県委託事業

やまなし 市民後見人 養成基礎講座

第5期

成年後見制度に関心のある方、地域での高齢者問題・障害者問題に関心のある方などを対象に、山梨県立大学では「やまなし市民後見人養成講座」の第5期生を募集いたします。

全6回の講座を右記の日程で開催いたします。講座の履修者には修了証をお渡しいたします。

市民後見人の基本的なことからお話しいたします。

初心者・実務家の皆様どうか奮ってご参加ください。

※講座内容は、昨年度と同様です

参加料 無料

場 所 山梨県立大学飯田キャンパス
C館1階 101教室

※12/15のみA館6階 サラバ教室
甲府市飯田5-11-1 TEL 055-225-5412

申 込 FAX、メール、電話で
お申込ください

詳しくは裏面をご覧ください

開催日時

13:00～16:30

※第1回のみ

12:00開始

12/1(土)

イントロダクション

「市民後見人の概要と
地域における後見人の役割」

12/8(土)

「後見制度と民法」

12/15(土)

「社会福祉協議会等の
活動からみた市民後見」

12/22(土)

「障害者への理解と
市民後見活動」

2/2(土)

「高齢者の理解と対応方法」

2/9(土)

「地域に根差す
市民後見人誕生に向けて」

第1回 山梨政策フォーラム —甲府市における空き家対策の現状と課題—

■開催趣旨

人口減少とあわせて、空き家問題は山梨県の喫緊の政策課題である。空き家全国一位という現状が示すように、空き家の問題はまちづくりや地域活性化において避けて通れない重要な課題である。

この山梨政策フォーラムでは、空き家問題の全国的傾向を踏まえて提案された空き家対策の学際的・実務的ノウハウを共有するとともに、甲府市における空き家対策の現状と課題について協働の視点から理解を深める機会としたい。

■概要

- ・日時： 12月 13日（木）、13：00～16：00
- ・場所： 山梨県立大学飯田キャンパス A館6階サテライト教室
- ・主催： 山梨県立大学国際政策学部・地域研究交流センター
- ・後援： 甲府市

■プログラム

【第1部】

- 1300～1310、開催の挨拶（澁谷理事）
- 1310～1400、基調講演、宮崎伸光（法政大学法学部教授）
空き家問題の位置づけと政策的手法
- 1400～1430、事例報告 甲府市空き家対策課
甲府市の空き家対策の取り組み現況
- 1430～1450、休憩

【第2部】

- 1450～1550、パネルディスカッション
空き家問題の解決に向けた地域的理解と合意形成
コーディネーター
申 龍徹（山梨県立大学国際政策学部准教授）

戦後文学への招待

—俳句・詩・小説—

講師：井口時男先生

文芸評論家。著書に『柳田国男と近代文学』、『批評の誕生 / 批評の死』、『危機と闘争 大江健三郎と中上健次』、『暴力的な現在』、『少年殺人者考』、句集に『天來の獨樂』、『をどり字』など。

2018年12月20日(木) 14:50-16:20
山梨県立大学飯田キャンパス A館 6階サテライト教室

* 事前申し込み不要。聴講無料。

問い合わせ先
山梨県立大学国際政策学部 大村 梓
400-0035 山梨県甲府市飯田 5-11-1

山梨県立大学 地域研究交流センター 2018年度 研究報告会

日時 平成31年3月13日(水)
13:00~17:00

場所 山梨県立大学飯田キャンパス (甲府市飯田五丁目11番1号)
A館6階 サテライト教室

~プログラム~

- ①13:05~13:25
山梨県における外国籍住民の保健医療福祉をめぐる
~主たる医療機関における医療通訳の実態と医療通訳者養成~
看護学部 准教授 長坂 香織
- ②13:30~13:50
子どもを亡くした親への地域での支援について
看護学部 講師 山下 恵子
- ③13:55~14:15
山梨県内病院の外来における在宅療養支援の実態
看護学部 准教授 泉宗 美恵
- ④14:20~14:40
地域包括ケアシステム構築における地域づくりのための支援に関するプロジェクト
人間福祉学部 講師 高木 寛之
- ⑤14:50~15:10
高大連携事業成果発表(城西高校、身延高校)
- ⑥15:15~15:35
移動・移乗用介護ロボット等の導入プロセスの検証
人間福祉学部 講師 前川 有希子
- ⑦15:40~16:00
山梨県の小学校英語教育におけるインバウンド観光英語導入に向けた研究
国際政策学部 准教授 高野 美千代
- ⑧16:05~16:25
手でみるプロジェクト2018~触察で鑑賞できる展示会の企画と運営~
人間福祉学部 准教授 古屋 祥子
- ⑨16:30~16:50
多言語による高校進学ガイダンスの有効性
~ロールモデルと高校ブース設置による波及効果~
国際政策学部 准教授 萩原 孝恵

お問い合わせ

地域研究交流センター
(社会連携課)
TEL 055-225-5412

参加費無料、入退出自由、事前申込不要です。
お気軽にご参加ください。

2018年度 山梨県立大学 地域研究交流センター 年報

発行者：地域研究交流センター長 二戸 麻砂彦

編集：地域研究交流センター 交流・発信部門

部門長 青柳 暁子（福祉コミュニティ学科）

伊藤 智基（総合政策学科）

須田 由紀（看護学科）

発行所：山梨県立大学地域研究交流センター

住所：〒400-0035 山梨県甲府市飯田5丁目11-1

TEL：055-225-5412 FAX：055-225-1150

E-mail：ucrc@yamanashi-ken.ac.jp

発行日：2019年5月21日

UCRE

University Center for Research and Exchange

山梨県立大学地域研究交流センター

〒400-0035 甲府市飯田 5-11-1

TEL 055-225-5412 FAX 055-225-1150